

1. 兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。(15:50)
 - a. 血肉のからだは神の国を相続できない。聖書には、アブラハムの子孫が地を相続しすべての民族は彼を通して祝福される、という約束に始まり、一貫して「相続」というテーマが流れている。
 - b. 今日の箇所では特に神の国と朽ちないものの相続、ということについて見ていくが、これはイエスに従う者が相続するものすべてを包括したものなのか、あるいはこの二つに限ったことなのか定かではない。
 - c. というのは、新約では相続に関する他の記述があるからである。例えば、柔和な者は地を相続する、イエスに従う者は永遠のいのちと救いを相続する…。ペテロは相続とは朽ちることも汚れることも消えていくこともないものだと言っている(1ペテロ1:4)。そして最終的に私たちは祭司として主ご自身を受け継ぐ(旧約でレビ族が継承する土地は持たなかったが主ご自身が相続であったように)。
 - d. 神の国を相続できない者についてはこの手紙(1コリント6:9~)や、パウロによる他の手紙(ガラテヤ5:19-21)の中に述べられている。
 - e. ヘブル書の著者も、エサウが長子の権利を売ったため祝福を相続できなかったことを記している(ヘブル12:15-17)。
 - f. 私たちが死すべき肉体を持っている間は神の御約束は完全には成就しない。しかし御約束は御霊を通してすでに始まっており、私たちは神の御約束と相続すべてが完全に成就する日を待ち望んでいる。そしてそれは復活の日まで続く。
2. 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。(15:51-53)
 - a. ラッパの音というのが比喩的表現なのか字義通りなのかまだ確かめるすべはないが、その日が来ると眠っている(死んだ)者も、まだこの世の肉体をもって生きている者も復活のからだに変えられ、朽ちないものになる。
 - i. ラッパの響きについては終わりの日の質問に対してイエスも言及している(マタイ24:31)。パウロは1テサロニケ4:16でも終わりの日のラッパのことを、ヨハネは黙示録で地上にさばきを下す7つのラッパのことを記している。
 - b. この終わりの日にはラッパの響きによる合図があり、死と罪に対する勝利がもたらされる。
 - i. 罪の結果は死であり罪の力は律法による。イエスにあつて私たちは勝利し、私たちが罪の報酬を受けなくなる日が来る。
 - c. しかしまだその日は来ていない。「ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだではないことを知っているのですから。(58節)」